

Ⅲ-3 子どものコミュニケーション

お子さんとのやりとりはうまくいっていますか？コミュニケーションは決して一方通行ではありません。お互いが相互に交わり影響し合うものです。お子さんと豊かにコミュニケーションするためにどのようにかわればよいのか考えてみましょう。

ワーク1 自己紹介をしましょう

○いろいろな状況で、話をしてみましょう。

◇話し手◇

- ・自然に聞く
- ・ただ聞く（うなずいたりしない）
- ・○○しながら顔を向けずに聞く

○どう感じましたか？

♪エピソード♪

ナオミさんは小学校3年生の女の子。ちょうど今、家に帰ってきました。母親の恵美子さんは、台所で夕食の炒め物を作っています。ナオミさんは台所のお母さんの後ろに立って話しはじめました。

ナオミ：「ただいまー ねえお母さん、聞いて、聞いて。」

母：「おかえり」と炒め物をしながら返事をしましたが、向こうを向いたままです。

ナオミ：「ねえ、来年からクラブがはじまるでしょ。何クラブにしたらいいかなあ」

母：「そうね、そんな年になったのね」

ナオミ：「マリちゃんは手芸クラブがいいんだって。私も同じクラブにしようかな。ねえお母さんどう思う」

母：「そうね、でも、ナオミは何がやりたいのかが大事じゃない？
と言いながらもお母さんは鍋から目を離しません。」

ナオミ：「でも、バスケットもいいなー。ねえ、お母さん、聞いてるの？」

ナオミさんはお母さんと腕を組もうとしました。

母：「危ないから向こうに行っててくれない」

ナオミ：「もういいよ!! お母さんなんかには相談しないよ。」

するとお母さんははじめてナオミさんの方を向いてこう言いました。

母：「ちょっと、今、料理してるのわかるでしょう。それでもちゃんと話は聞いてあげてたでしょう。まったくもう。帰って手は洗ったの？」



ワーク2 エピソードを読んでどう思いましたか？

○感想

○恵美子さんについて

○ナオミさんの気持ち

ワーク3 恵美子さんはどうしたら良かったのでしょうか？

ワーク4 グループでワーク2、3で記入したことを発表してみましょう。

ワーク5 子どもとコミュニケーションをとるときに大切だと思うことについて話し合ってみましょう。



資料

考えや気持ちを伝える二つの方法

考えや気持ちを伝える方法には二つあります。言葉で伝えるコミュニケーション(言語コミュニケーション)と、言葉以外の要素で伝える方法(非言語コミュニケーション)です。非言語コミュニケーションには次のようなものが含まれます。

- 声の質、音量、しゃべる速さ、口調、間の取り方など「話すこと」に関する要素
- 視線、表情、ジェスチャー、身体接触、服装、相手との距離、すわり方、歩き方など「話すこと」に直接関係しない要素

同じ言葉でもこれらの要素によっては全く違う受け止められ方をされてしまうことがあります。「話さない」ということもひとつの言葉を使わないコミュニケーションになりますね。

「抱きしめる、という会話」

子どもの頃に
抱きしめられた記憶は、
ひとのこころの、奥のほうの、
大切な場所にずっと残っていく。

そうして、その記憶は、
優しさや思いやりの大切さを教えてくれたり、
ひとりぼっちじゃないんだって思わせてくれたり、
そこから先は行っちゃいけないよって止めてくれたり、
死んじやないくらい切ないときに支えてくれたりする。

子どもをもっと抱きしめてあげてください。
ちっちゃなこころは、いつも手をのばしています。



2003年「社団法人公共広告機構」新聞広告より

ふりかえり プログラムをとおしてどんなことに気づきましたか？

Ⅲ-4 いろんなことにチャレンジしよう!! ～体験のすすめ～

あなたが子どもの頃と、今のお子さんとは生活環境や生活スタイルがずいぶんと変化してきています。便利になった分、学ぶきっかけなどを失ったものもあるのではないのでしょうか。ここでは、子どもが「生活体験」や「自然体験」をとおして学ぶことについて考えてみることにしましょう。

♪エピソード♪



ワーク1 子どもたちが活動している写真を見て、ふきだしにことばを書いてみましょう。

ワーク2 写真の子ども達は、このような体験を通して、どう変わっていくと思いますか。グループで話し合ってみましょう。

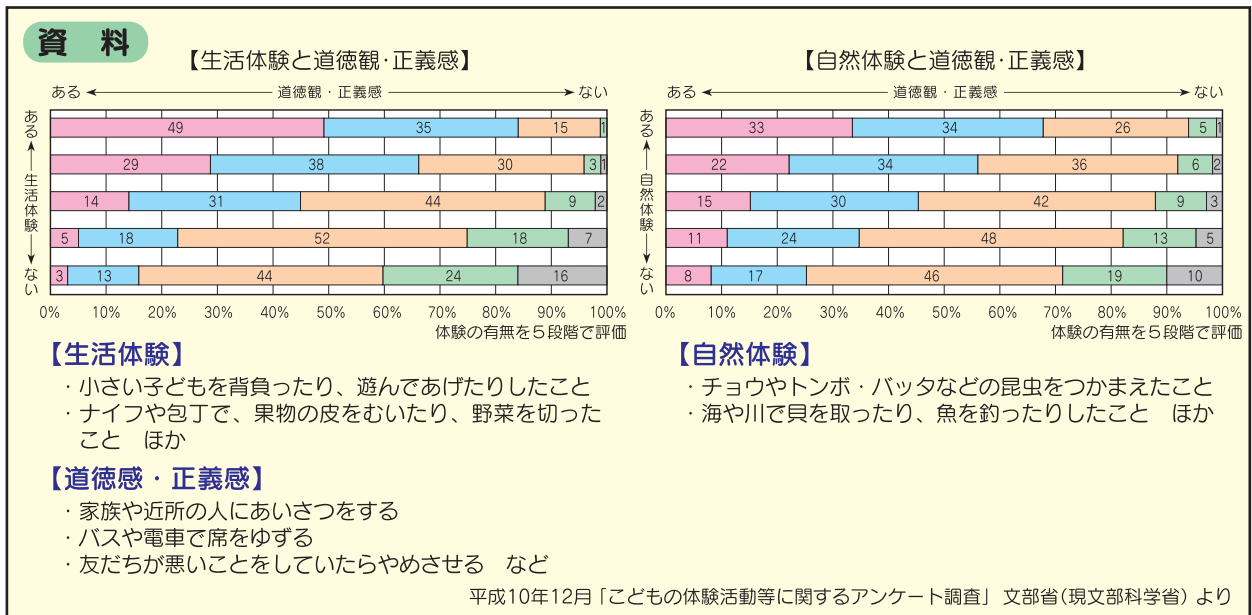
ワーク3 体験を通して、子どもにとってプラスになることを3つ書いてみましょう。

•

•

•

ワーク4 あなたのお子さんと一緒にできる「体験」や、させたい「体験」を考えてみましょう。



ふりかえり プログラムをとおしてどんなことに気づきましたか？